組織拡大に全力を！

全学連（斎藤郁真委員長）書記局通信

2012年11月13日
No.67

Tel　03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

デモ禁止策動打ち破り

11・11霞ヶ関に20万人！

１１月１１日、国会前をはじめ霞ヶ関一帯が２０万人の反原発の声に埋め尽くされました。

この日、主催である首都圏反原発連合は日比谷公園から出発のデモを企画するも、東京都が前代未聞のデモ不許可決定を下しました。絶対に許すことはできません。

全国から結集したＮＡＺＥＮを先頭とする部隊は日比谷公園前の弁護士会館で徹底抗議の集会を行いました。（左写真）

１５時から霞が関を一周する、経産省などへの申し入れ・抗議行動がテント前を出発した。「原発いらない福島の女たち」のかんしょ踊りの列が先頭に立った。（下写真）

女性たちが身につけたそろいの黒の法被と赤いたすきが目に鮮やかだ。後ろには、のぼりや旗を林立させたＮＡＺＥＮなどの長蛇の列が続き、「原発やめろ！　子どもを守れ！」とコールをとどろかせた。国会正門前は、行動が始まる午後３時前から人びとで埋まった。大阪、滋賀、富山、広島、愛媛、鹿児島など原発立地・近隣府県を始め全国から集まった人びとが原発への怒りと原発廃絶の思いをアピールした。降り出した雨を熱気で吹き飛ばす発言が続いた。

１１・４－１１・１１の地平から組織拡大へ！

１１・４全国労働者総決起集会参加者の感想②

●福島大学　H

11・4全国労働者総決起集会には5800人もの民衆が終結しました。日本で働く人のみならず、世界各国から労働者が集まり、労働者同士の間には国境などないという事実を改めて印象づけました。集会に参加して強く感じたことは、人それぞれどこの国・地域・職場で戦うかは異なっていても、敵は資本家であり、資本家・資本主義の打倒が最終目標という点は共通しているということでした。資本家からの新自由主義攻撃に屈せず戦い抜いている労働者が、日本そして世界に数多く存在するということを実感できました。

代表者の発言の中で特に印象に残ったのは佐藤幸子さんの「福島が変革の先頭に立つ」という言葉でした。福島で起こった史上最悪の原発事故。それは人の命を切り捨て利益のみを追求してきた資本家によって起こされた人災です。今福島には原発事故によってあらゆるものを奪われた人々の怒りがあります。その怒りこそがこのような社会、そして世界を変えていく原動力になると私は考えています。福島に暮らす学生の一人として、反原発・そして資本主義打倒の気運を福島から世界へもっと広げていきたいと思いました。

●沖縄の学生

11月４日の全国労働者総決起集会に、初めて沖縄から参加しました。３日の国際連帯集会と５日の理念交流にも参加させてもらったので、３日間全体がとても充実して素晴らしい体験になりました。

11月４日は、本集会の前に学生の前段集会が行われました。京大や法大、東北大、広大からの報告を聞きました。各大学ともキャンパスで具体的に行動を起こしており、沖縄でもこれに続きたいという思いを強くしました。

本集会では、沖縄を代表して富田晋さんが発言しました。晋さんは、オスプレイ配備の強行、米軍による女性暴行事件、中学生暴行事件に対して、子どもたちや全世代の県民が抱いている恐怖や、基地とはもう生きていけないという憤りを語ってくれました。そして晋さんが冒頭に語っていた　　職場の方々が「私たちは世界の労働者と一緒なんだと伝えてくれ」と言ったことに感動しました。

11月11日、経産省前脱原発テントが人で埋め尽くされる

１１・１１国会前で声をあげる全学連！

それからまた、特に感動したのが、アメリカのスティーブ・ゼルツァーさんの発言です。ゼルツァーさんは、アメリカでの闘いの報告とともに、沖縄米軍基地の撤去を訴えてくれました。３日の集会でも、沖縄から日本から、韓国から世界中から米軍基地を撤去するよう訴えてくれました。アメリカと沖縄、アメリカと日本の労働者が結びついたら帝国主義は打倒できる！とあの場にいて体感しました。

そしてさらに、「領土問題」を使った分断に負けずに、韓国の民主労総と国際連帯を深め、ぶ厚い団結を築けたことです。

韓国には米軍基地があるし、米軍による事故や暴行事件もあります。韓国も沖縄も非正規の若者が多く、日本全体でも若者の２人に１人が非正規という状態です。今回民主労総の組合員から聞いた、本当に熱く、小説や映画なんかよりもドラマチックな闘争に、とても感動を覚えました。沖縄と韓国、日本と韓国の労働者が団結できない方がおかしいと、11・４集会を経て思います。

11・４集会は、私の人生を変えた、闘い続けることをリアリティを持って決心させてくれた集会でした！　この感動は実際に参加してみないとわかりません。『前進』の記事だけでは、10分の１も伝わってきません。この感動を伝えるには、実際に集会に来てもらうのが一番です。

みなさん！　来年も巨万の労働者の動員で、人生を変えられる経験をする人をたくさん増やしましょう。トゥジェン！